

「自分」という素材を活かし、「社会」に貢献したい

国沢 真弓 33 回生 (昭和 56 年卒)

フリーアナウンサー、自閉症スペクトラム支援士

思えば、ずっと「その事」を心がけて過ごしてきた。「自分と言う素材を活かして生きたい」…と。新宿高校時代は、勉強は「中」、クラブは「硬式テニス」、楽しい3年間を過ごしたが、さしたる目標もなく、受験期に突入。新宿高校とは全く違った環境を覗いてみたいという事で、聖心女子大学に入学。ここでもまた楽しい大学生活を過ごしたが、さしたる目標もなく就職活動期に突入。そして、富士通株式会社に入社。働き出して、初めて気づいた。「私は働くのが好き」「自分も活かしたいし、社会でも役に立ちたい」と…。ちょうど、1986年の「男女雇用機会均等法」施行の前の年に入社した為、翌年、同じ4年制大学卒の女子社員が責任のある仕事を任されていたのに、私達の代はそうはいかず…。この入社「1年の壁」は大きく、同

じ会社で「資格」を変えるのも難しい。ならば「手に職を持って、一生仕事を続けられるようにしよう！」と思いつき、目指した職は、なんと「アナウンサー」。理由は、①人と話すのが好き②声を褒められる事が多い…という2点。たったそれだけの理由で、藁をもすがる思いでOLをしながらアナウンサーの学校に通い、大学生に交じって発声や滑舌の練習を繰り返す約1年後、晴れて「ラジオ短波」の経済ニュースキャスターに採用。それを機に会社を退職・結婚…と、人生が動き始めた。「フリーアナウンサー」となった私は、NHKの「きょうの料理」「おしゃれ工房」等の司会の他、様々な局の番組進行、レポート、海外特派員、ナレーション等、依頼されれば何でも引き受け、経験を積み、度胸とスキルをつけていった。



とにかく、若かった！そんな時も常に「自分という素材を活かして生きていきたい」という思いが根底

にあった。「女」として生まれたので、出来れば美しくありたいし（年齢不相応に若く見られたい…とかではなく><）、出産も育児も経験したい…。

1995年に長女を出産、2001年に長男を出産。2児の母となった。その間も、フリーアナウンサーとして、仕事はずっと続けていた。フリーで働くいい点は、ある程度、自分のペースで働ける事。例えば、子どもの運動会などの行事は優先し、「家族との時間」や「自分の時間」も確保しながら「仕事」も大切に続けて行った。もちろん、ワガママばかり言っていたら「仕事」は来なくなってしまうが、そこは長年のお付き合いで、仕事先との信頼関係を築きながら、乗り越えていった。

そんな中、息子が3歳の時「自閉症」という障がいがある事が判明。育てながら漠然と感じていた不安「言葉が遅い」「人と交わって遊ばない」「回る物ばかり見ている」という事が、障がいの特性ゆえだったと判り、ショックを受けた。実は、ちょうどその頃、私はテレビに出演する側でなく、番組を制作する側に、仕事をシフトするべく動き出していた時期だった。けれど、息子に障がい判り、これからは訓練の為の施設や病院に通わなければならない。新しい仕事につき込む時間もエネルギーもない。どうしたらいいんだろう。2～3ヶ月、家事をしながら涙がこぼれる日を送った。けれど、泣いてばかりはいられなかった。何故なら、息子は日々成長しているから…。そして、目の前で今までと変わらず笑顔を見せてくれるから…。「息子をありのままに受け止め、持っているチカラを活かしてあげよう」…そう決心した私は、2004年、同じ障がいのお母さん達とつながって情報交換をする為、住まいのある三鷹市で発達障が

い児親の会「モンブランの会」を立ちあげた。その一方で、様々な専門家に息子の事を相談し、講演会を受け、本を山ほど読み、自閉症について詳しくなっていた。ならば、いつその事「専門家になってしまおう！」と、2年かけて「自閉症スペクトラム支援士」の資格を取得した。「自分を活かしたい」という思いはここでも活かした。「アナウンサー」で、「発達障がいの専門家」で、「自閉症児の親」…という3つの立場を、強みに変え、出来る事をやっつけていこう…と。そこで、見た目に障がいと判りづらい自閉症をはじめとする発達障がいの事を伝える「講演活動」をスタートした。また、発達障がい児の子育てで悩んでいる、同じ仲間の親を支えたいという思いで「相談支援活動」もスタートした。それらの活動を事業として、継続的に行って行く為、2013年に、仲間と一緒に「一般社団法人」を設立し、代表になった。

今、私は大変忙しい日々を過ごしているが、とても充実している。「情熱」と「使命感」を持って打ち込める仕事に巡り会えたのは、なんて幸せな事なんだろう。自分も活かし、社会にも貢献する。子どもや家族の幸せも考えながら…。高校・大学時代、なんのポリシーもなかった私が、この30年で、こんな風が変わっていった。その根底には「自分という素材を活かして、人生を全うしたい」という思いがあったから…。

どうぞ皆さんも、今は自分の「強み」や「特性」が判らなくても、せつかくこの世に生を受けた、その「身体」と「心」を存分に活かすよう心がけていれば、きっと何かが見えてくるはず。先輩として応援しています。

私もこの先、人の役に立つ事に喜びを感じる経営者であり続けながら、エネルギーで可愛いおばあちゃんを目指して、生きていきます！！

朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。今回は、テレビやラジオで、ナレーション、司会、番組企画等を担当する傍ら、一般社団法人「発達障がいファミリーサポート Marble」の代表としてもご活躍の国沢真弓さんから、原稿をいただきました。